

弘大など共同研究チーム、インフル発症リスク分析

5タイプ感染しやすく

解析結果：インフルエンザにかかりやすい特徴的なタイプ

血糖が高め	肺炎の既往あり	多忙・睡眠不足	栄養不良	アレルギーあり
-------	---------	---------	------	---------



岩木健診の健康ビッグデータの解析結果
(大正製薬提供)

全国で流行しているインフルエンザ。今年は過去10年間で最も早い流行期に入っているといわれており、本県でも患者数が増加している。28日には県が今季初となる全6保健所管内に警報を発令。「過去最高レベルで流行中」とし、さらなる感染拡大を懸念する。

研究は「なぜ人によってインフルエンザのかかりやすさが違うのか」という疑問から始まった。研究に携わった同社セルフメディケーション研究開発企画部の藤原健太主事は「岩木健診の超多項目なビッグデータを活用すれば、生活習慣や病歴などの複合的な要因の関係性を得られると考えた」と説明した。

県内全域でインフルエンザが警報レベルに達した。感染拡大を抑えるため、基本的な対策の徹底はもちろん、ワクチン接種の検討が呼び掛けられている中、弘前大学と京都大学・大正製薬(本社東京都)の共同研究チームが分析したインフルエンザ発症リスクに関する研究成果が注目を集めている。弘前大が中心となつて取り組む大規模住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」(岩木健診)の健康ビッグデータを活用したもので、個人の体質や生活習慣に合わせた「オーダーメード型」の対策として感染拡大抑制への寄与が期待される。(稲葉智絵)

全国で流行しているインフルエンザ。今年は過去10年間で最も早い流行期に入っているといわれており、本県でも患者数が増加している。28日には県が今季初となる全6保健所管内に警報を発令。「過去最高レベルで流行中」とし、さらなる感染拡大を懸念する。

研究は「なぜ人によってインフルエンザのかかりやすさが違うのか」という疑問から始まった。研究に携わった同社セルフメディケーション研究開発企画部の藤原健太主事は「岩木健診の超多項目なビッグデータを活用すれば、生活習慣や病歴などの複合的な要因の関係性を得られると考えた」と説明した。

岩木健診のビッグデータ活用 予防策別 拡大抑制へ期待

エンゼに感染したことがある人との比較。感染したことのある121人を対象に、AI(人工知能)を活用して300項目以上のデータからインフルエンザ発症に関係する165項目(血液検査、体組成、食事、睡眠などを抽出)を抽出して分析し、かかりやすい人のタイプを分類した。最初にインフルエンザに感染したことのある1の5つのタイプを見

い出した。さらに複数のタイプを持つグループで発症リスクが高いことも分かった。感染症に詳しい内科医・血液専門医の久住英二医師(東京都・立川パークスク

リニック院長)によると、タイプ別の予防策として「生活習慣の改善、体の防衛機能を高める食生活」を挙げる。市販されている熱湯浴や総合感冒薬、国

の結果、かかりやすい人の特徴として①血糖が高め②肺炎の既往あり③多忙・睡眠不足④栄養不良(野菜の摂取が少ない)⑤アレルギーあり(アレルギー検査の数値が高く、アレルギー鼻炎などを発症している)の五つのタイプを見出た。さらに複数のタイプを持つグループで発症リスクが高いことも分かった。研究に携わった弘前大は、「この結果が得られたことをうれしく思う。今回の解析手法は他の感染症への応用ができる」と述べた。

研究成果は8月、国際的な自然・健康科学分野の学術雑誌「サイエンティフィック・リポート」に掲載された。